



第56回 関西学院史研究会

寿岳文章の仕事：民藝運動への貢献を中心に

学院の格調高い校歌 A Song for Kwansei は、英国の高名な詩人ブランデンの作詞によるが、その背景には戦時下における寿岳文章氏の平和への祈りがあった。

関西学院大学の英文学教授として寿岳氏は活躍されたが、その初期には特にW. ブレイク研究に没頭している。その重要な契機となったのは柳宗悦氏との出会いであり、雑誌『ブレイクとホイットマン』を共同編纂している。柳氏との出会いは寿岳氏を民藝運動に促し、その顕著な貢献として書物の工藝があげられる。とりわけ「向日庵本」の名で知られる寿岳氏の私版『紙漉村旅日記』（1943年）自体が見事な書物工藝であり、同時に和紙研究の重要な貢献といえる。その後、正倉院の古紙調査でも和紙研究の第一人者として主導的役割を果たしている。

● 講師 ●

神田 健次 氏

(かんだ けんじ)

関西学院大学名誉教授(元神学部教授)、学院史編纂室顧問、
神戸バイブルハウス理事長

2023 12 / 1 (金) 11:00～12:40

大学図書館・地下1階 大学図書館ホール

(西宮上ヶ原キャンパス)

無料・一般参加歓迎・申込不要

主催

関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022